

いつもの挨拶　いつもの声掛け

伴あんしんネット



こんな見守りしています！

- ◎新聞,郵便物が溜まってないか
- ◎部屋の明かりがついているか
- ◎洗濯物がちゃんと出ているか
- ◎体調がいつもと変わった様子はないか等…

見守り協力員にいつもの挨拶やさりげない声かけの中で普段より少し気にしていただき、月に1度程度地域包括支援センターに報告をお願いしています。

戸山・伴・大塚地域包括支援センター内
伴あんしんネットの会　電話(849)5860

<令和2年3月号>

お年寄りを近隣の人が見守る「伴あんしんネット」伴中央駅ブロック会議は2月、4町内の活動推進メンバーが1年間の活動報告をしました。
登録者 26 人を日常支援し、独居が増える潜

在的ニーズも確認、広報ビラ配布などの啓発活動を決めました。伴学区の4ブロック全体の登録者は1月現在38人です。近隣の協力者が、あいさつや声掛けで支えています。

＜平成31年3月号＞

～近隣の支え合い 地域を再生 登録者増える～

伴学区でお年寄りを近隣の人が見守る「伴あんしんネット」（伴社協や町内会連合会、民児協など4団体の共同運営）。平成30年初め一部の地区で先行した活動が全域に広がり、登録希望者が増えています。

3月現在、一人暮らしや高齢世帯のお年寄りの登録者は計39人。内訳は、伴中央ブロック28人、伴駅ブロック11人。近隣の協力者も計28人に上っています。

安佐南区の全小学校区のうち半数の13学区がこの見守り活動を実施する中、伴の登録者数は、数年前から取り組む安、安西に次いで多いという。

伴では三城田、細坂両地区の計11人から始まり10月から学区全体を4ブロックに分け

て取り組む。あいさつや声掛けなど近隣の絆で支え合う地域再生の試みとされる。

伴中央ブロックの推進委員は「一人暮らしのお年寄りにとって、自分を気にかけてくれる人がいると思えることで、大きな安心感が得られる」とみています。

＜平成 30 年 11 月号＞

～あんしんネット 全域に拡大～

伴学区でお年寄りを地域で見守る「伴あんしんネット」が、先行していた三城田、細坂地区から全域に拡大します。一人暮らしなどのお年寄りの登録を歓迎します。

伴社協、町内会連合会、民児協、戸山・伴・大塚地域包括支援センター(略称「包括」)の4団体が「伴あんしんネットの会」を結成。9月下旬に各団体の拡大会議で、全14町内会の



エリアを 4 ブロックに分け、地域の実情を踏まえて取り組むことになりました。

見守りが必要と思われる一人暮らしや高齢世帯のお年寄りが対象。ふだんのあいさつや声掛けなど日常生活の中、近隣の絆で支え合う地域再生の願いも込めます。

地域見守り活動の仕組みはこうですー。

見守りを希望するお年寄りを募る。同意・登録が原則。一人暮らしや要援護者など希望すれば、だれでも見守りの対象になれる。

近隣の住民が協力員として声かけ・見守りをする。対象のお年寄り宅を通ったり、姿を見かけたりした折、「新聞や郵便物がたまっていないか」「変わった様子はないか」などをチェック。月ごと包括に報告する。必要があれば包括職員が相談・支援をする。

2 月と 3 月、それぞれ先行モデルとして始めた三城田で十一人、細坂で 4 人のお年寄りが登録されています。お年寄りから「親類でもないのにありがたい」、協力員から「近隣

を気に掛けるようになった」などの声が聞かれています。

<平成 30 年 3 月号>

～「近助」の絆で 安心安全の地域～

伴学区の各団体が連携し、お年寄りを地域で見守る「伴あんしんネット」が三城田、細坂地区で始まった。ふだんの日常生活の中、気がかりな一人暮らしや高齢世帯のお年寄りを近隣の絆で支え合う、いわば「近助」による地域再生の願いを込めています。

2 月からお年寄りを見守る協力員宅。冷蔵庫に「見守りチェックカレンダー」＝写真＝が貼ってある。見守り対象のお年寄り宅を通ったり、姿を見かけたりした折、「新聞や郵便物がたまっていないか」「変わった様子はないか」などを表にチェックします。

見守りチェックカレンダー					
日	目撃確認	音聲確認	近所確認	近所確認	近所確認
1	O	O	O	O	O
2					
3					
4					
5	O	O	O	O	O
6					
7					
8					
9					
10	O	O	O	O	O
11					
12					
13					
14					
15	O	O	O	O	O
16					
17					
18					
19					
20	O	O	O	O	O
21					
22					
23					
24					
25	O	O	O	O	O
26					
27					
28					
29					
30					
31					

戸山・伴・大塚地域包括支援センター(略称「包括」)が窓口になる地域支え合いの仕組みはこうですー。

見守りを希望するお年寄りを募る。同意・登録が原則。一人暮らしや要援護者など希望すれば、だれでも見守りの対象になれる。

近隣の住民が協力員として声かけ・見守りをする。チェックカレンダーは、そのまま報告書になる。それを月ごと包括に報告する。必要があれば包括職員が、お年寄りや住民への相談・支援をする。

協力員の日々の活動に広島市の高齢者いきいき活動ポイントも付与。地域を支える二ポイントです。

3月現在、三城田で見守り対象者七人、協力員八人。細坂各4人が登録されました。

三城田の準備委副委員長である上野昭司・伴社協ボランティアバンク「とも」事務局長は「協力員は、気懸りなことがあった場合、一人で悩まないで、町内会や民生委員、社協などみんなの力で解決を考えたい。作業支援

などについては、ボランティアバンク『とも』が、お手伝いしたい」と助言します。

伴学区の民生委員の調査によると、学区で見守りが必要なお年寄りは約 150 人。将来増加を見込む。地域にもっと支え手が欲しい超高齢社会に向け、住民と共通認識を深めながら実情に沿った取り組みを広げていきます。

■伴あんしんネットの歩み

昨年 3 月 社協、町内会、老人会、女性会、民児協の各団体と包括が準備委▽ 6 月 伴あんしんネットと命名。三城田、細坂両地区の先行を決める▽ 7 月 両地区準備委▽ 9 月 啓発チラシ配布▽ 10 月 戸別訪問始める▽ 12 月 長東西学区の事例学習会▽ 今年 1 月



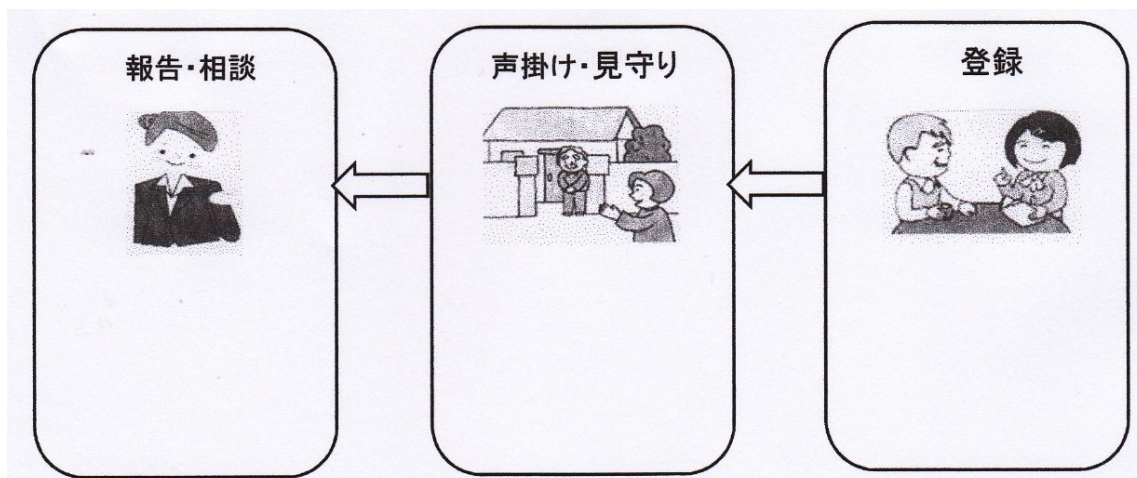
包括職員が寸劇で啓発▽ 2 月 三城田で見守りを始める▽ 3 月 細坂でも取り組み始める

<平成 29 年 3 月号>

超高齢化へ試される近隣の絆～見守り事業を検討

一人暮らしなどのお年寄りを住民が見守る—広島市の高齢者地域支え合い事業が、伴学区で検討されている。戸山・伴・大塚地域包括支援センターが、平成 28 年 9 月に提案した。社協や町内会連合会、民児協、女性会、老人会が勉強会も開いた。3 月から代表者による準備委員会が始まる。薄れる地域の結びつきをつむぎ直す力も、超高齢社会に向けて試されている。

先行する安佐南区の安西学区や長東西学区の報告を例にすると、見守りの仕組みはこうなる。



一人暮らしや要援護などの見守り対象のお年寄りを募る。見守る住民も近隣から募る。

住民はお年寄りを毎月訪ね、困り事も聞き取る。包括支援センターが情報を管理し、関係者で共有する。

1月に3回、五団体合同で開いた勉強会は、これからの地域の取り組みについて学区全体で共通の理解を得ようと企画された。

少子高齢化が進む中、援護を求めるお年寄りが急増する。厳しい財政下、公的なサービスも細る。将来、地域で孤立しかねない不安を持つ、お年寄りをどう支えるか。識者や行政担当の報告から厳しい現状が伝わった。



中国新聞社の平井敦子論説委員＝写真右端＝は、尾道市の団地住民の見守りで地域のつながりができ、民生委員が活動しやすいと歓迎する事例も報告した。民生委員の負担の軽

減は緊急の課題でもある。

勉強会を終え、地域包括支援センターから日程も示された。正式な運営委を立ち上げ、お年寄りの登録者と見守り協力者を募り、見守り活動の開始まで半年以上かかるという。

超高齢社会に向け、お年寄りを地域全体で支え合う仕組みはいろいろある。伴学区の実情に合った取り組みについて住民と共通の認識を深めながら、どう見出すか。地域の知恵が求められる。

〈地域支え合いメモ〉

広島市の高齢者見守りは平成 28 年 9 月現在、26 カ所で実施している。安西学区のアンケート結果では、お年寄りの登録者から「親類でもできない。ありがたい」「協力員に負担をかけ、プレッシャーを感じる」。見守りの協力員から「近所とよく話すようになった」「どの程度をしてよいか分からない」などの声があった。